新潟県高校生の意識調査について

新潟県立柏崎工業高等学校長　保坂　芳央

学校を運営するにあたり、生徒の実態や意識を把握し、学校の教育活動（授業、学校行事、部活動等）を計画していく必要がある。本校の生徒の意識や実態について、新潟県高等学校長会の実施した、新潟県の高校生の意識調査と本校の調査結果を比較し、検討した上で、運営方針を考え、学校の強みを全面に出し、教職員への意欲の喚起を図りながら、学校の特色ある取り組みを推進する。また、全県の意識調査の経年変化を見る点から、全データと抽出データを比較した。全データは６万人からのビッグデータである。このデータ量であれば、20 分の１のサンプリング数で、全数との割合の差が２％以下の問いの数は 99％程度であった。生徒の各種意識調査等を元に、ＰＴＡ、地域企業、大学と連携を図り、学校組織マネジメントサイクルを回すことが、学校運営においては、有効だと考える。

１　はじめに

生徒の進路希望実現と地域から信頼され、期待される学校になるように、本校の特色を活かし、多くの中学生から行きたいと思うような魅力的な学校を目指して、学校組織マネジメントサイクルを実施する、そのために、全県と工業系学科並びに本校の生徒意識を把握する必要がある。

２　学校の概要と学校像

昭和 14 年に新潟県立柏崎工業学校として創立し、平成 17 年に、4 学科のくくり募集で工業の 5 コース制を実施。中越地震、中越沖地震の震災を契機に、防災エンジニアコースが新設された。充実したキャリア教育に取り組み、希望進路実現と産業振興を担う技術者の育成を目指している。また、工業高校の特色を活かした防災・減災教育に取り組み、地域へ貢献したいという情熱を持った人材を育成している。

３　高校生意識調査

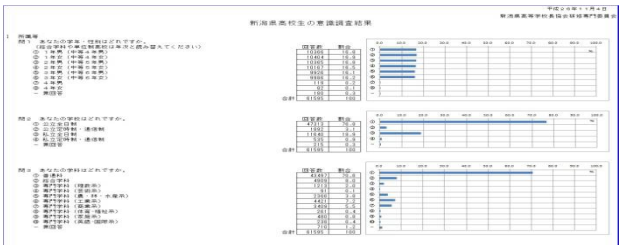
本県の高等学校長協会が、全県の高校生等を対象に、学校生活、日常生活、希望進路、将来の夢等についてのアンケート調査を実施した。その結果と本校の調査結果を比較し、違いを分析し、本校の課題や解決に向けた方向性等を検討した。

（１） 実施方法

対象は新潟県の公私立高等学校、中等教育学校後期課程のすべての生徒を対象に、平成 25 年 10 月 15 日から 11 月 15 日までの期間に生徒意識調査を実施[1)]、調査学校数は 111 校になる。標本数は 61595 になる。ビッグデータと言える。マークシート形式で質問に答えさせる集団質問紙法で、学校ごとに実施し、地区ごとにマークシートを読み取り集計した。問いは 82 問である。

（２） 新潟県生徒意識調査の集計

集計一覧表の一部を次に示す。



調査の結果から次の傾向[2)]を示している。

① 義務感や仕事につくために勉強をしている傾向がみられる。成績や学力についての自己肯定感は高いとは言えない。

② 高校卒業後、大学進学希望の割合が低い一方で、専門学校への進学や就職を希望する割合が高い。

③ 社会的地位・リーダー志向や起業家精神は弱い傾向が見られる。

④ 「ボランティア活動をして社会に貢献した」と 7 割以上の生徒が答え、ボランティア活動や社会貢献への意欲を持っている。

⑤ 努力を尊び、実直でまじめで、実学志向など、いわゆる「新潟県人気質」を受けついでいる。

⑥ 運動部に参加している割合もやや高い、健康でたくましく心身を鍛えようと努力する傾向がみられる。

⑦ 過半数が高校卒業後「県内」「どちらかといえば県内」に進学や就職をしたいと希望しており、とりわけ就職を希望する生徒の大半が県内就職を希望している。

⑧ グローバルな視点で、留学したり、世界を舞台に活躍したいという意識より、内向き志向で将来像を描いていると言える。

（３）本校と工業系学科、全県との比較

全県、工業系学科と本校の違いをあげる。

① 「学校でとても充実していると感じるとき」は、全県では体育祭や文化祭の時で、33.7％であるが、本校では 18.1％、工業系では、24.2％で、大変少ない。本校では、クラブ

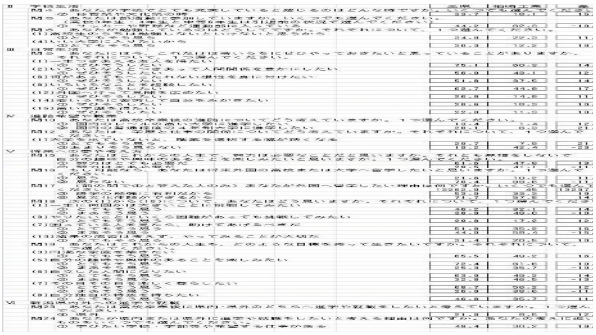
活動、学校行事、資格取得等で多くの取り組みを実施している。

② 「運動部活動への参加率について」は、全県では44.2%であるが、工業系では52.7%、本校では、62.3%である。大変高い。

③ 「高校生のうちは勉強をしないといけないと思う」は、全体では34.0%が、本校では22.3%である。興味関心の持てる授業の必要性を感じる。

④ 「一生つきあえる友人を得たい」は、県全体では75.1%に対し、本校では60.3%である。「いろいろな人とつきあって人間関係を豊かにしたい」は、全県では、56.0%で、本校では43.1%である。「いろいろな経験をしたい」全県では62.7%、本校では44.9%である。「外国へ行って見聞を広めたい」は全県では26.8%で、本校では14.9%である。より経験する機会やグローバルの視点から考える機会が必要に思う。

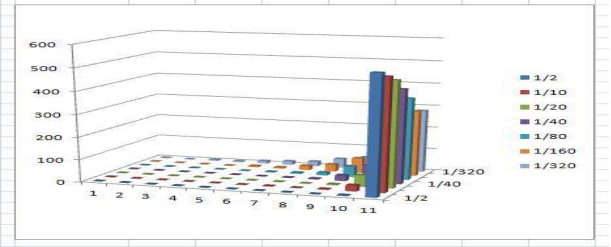
⑤ 「高校卒業後の進路について」は、大学に進学したいは41.5%に対し、本校では7.7%、「就職したい」は、17.1%に対し、本校では57.1%である。圧倒的に地元就職である。



4　データのサンプリング

今後も、全県の高校生の意識を把握するために、生徒意識調査を継続する必要がある。そのために、サンプリングデータと全データとを比較した。結果は次ぎの表とグラフである。

割合	100.0%	99.4%	99.0%	94.5%	87.4%	75.5%	71.3%
階級（%）	1/2	1/10	1/20	1/40	1/80	1/160	1/320
10以上	0	0	0	0	0	0	1
10～9	0	0	0	0	0	0	0
9～8	0	0	0	0	0	0	4
8～7	0	0	0	0	0	0	3
7～6	0	0	0	0	0	5	11
6～5	0	0	0	0	2	5	16
5～4	0	1	1	1	5	19	21
4～3	0	0	0	3	12	32	40
3～2	0	2	4	25	47	67	54
2～1	2	26	51	77	93	101	91
1～0	521	494	467	417	364	294	282
合計	523	523	523	523	523	523	523
ﾃﾞｰﾀ数	523	523	523	523	523	523	523



40 分の１の抽出では、全県の割合との差が、２%以下の割合が94.5%である。差を５%以下にすると100%が範囲に入っていた。抽出を20分の１とすると、２%以下は99%になる。全県のデータ数では、20分の１、クラスで２人程度の割合で抽出することにより全体の傾向を見ることができる[3)]。

5　今後の取り組み

① 学ぶ意欲を高め、確かな学力を育成するには、興味・関心の持てる分かりやすい授業のため、グループ学習でのアクティブラーニングやＩＣＴ活用の授業展開も必要である。

② 豊かな心、倫理観、規範意識などを育む教育の推進のために、生徒指導の分掌の拡充を図っている。生徒会、保健環境と生徒指導の連携をとれるようにまとめて、生徒へのきめ細かな指導体制を図っている。

③ 健康でたくましい心身を育む教育の充実のために、学校行事の拡充やクラブ活動の活発化を図っている。

④ 郷土愛を軸としたキャリア教育の推進のために、地域企業への連携強化や地域協議会の拡充を図って、インターンシップやデュアルシステムの拡充を図っている。

⑤ グローバル化に対応した教育の推進のために、学校の教室の英語表記や地域の大学の留学生とのふれあい交流事業を実施した。また、海外での修学の機会を計画している。

⑥ 「卒業後県外に進学・就職したい」は、県全体では21.8%で、工業系で12.1%、本校は9.5%である。極端に低い。就職しても県外や海外への勤務の機会もあるので、県外、海外での修学の機会も必要である。

6　まとめ

本校の意識調査から、学校行事の充実、クラブ活動の奨励、地域と連携したインターンシップ、課題研究発表会等をしっかり計画し、実施する必要がある。また、今後も、このような調査を行い、実態を把握する必要がある。全県では、各学校でクラスに２人程度の調査数によるデータ量により、実態、意識、傾向等の経年変化等を把握できる。学校の組織マネジメント[4)5)]の点からも、このようなきめ細かな生徒の意識調査（リサーチ）が必要である。

＜参考文献＞

１）新潟県高等学校長協会の高校生意識調査H25.10実施
２）新潟県高等学校長協会の高校生意識調査報告書H27.3
３）らくらく図解ｱﾝｹｰﾄ分析教室　菅民郎著　ｵｰﾑ社
４）青井倫一監修:通勤大学MBA１ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ通勤大学文庫総合法令
５）高橋智弘著:ﾋﾞｼﾞｭｱﾙマネジメントの基礎日本経営新聞社　他